

東京キリスト教学園 ボランティアセンター活動報告vol.18



2017/8/25

■いつもお祈り感謝いたします。

■献金報告

6月20日～6月23日のチャペル後の時間に行なった、ボランティア活動のための献金は計16,553円でした。尊い献金に感謝いたします。

この献金は、夏の被災地ボランティアに学生を派遣するために使われました。今後もTCUから被災地への派遣を続けていくために、祈りと献金のサポートをよろしくお願いいたします。

■活動報告

* 東仙台子供キャンプ

8/9～8/11に、日本キリスト改革派 東仙台教会の主催する被災地の子どもたちを対象としたキャンプに吉橋雄介、久島真人、平井和基、大田イサク、佐久間いずみ、林茉莉、遠田ゆりなの7名を派遣いたしました。餃子づくりや体育館レク、プールなど、様々なプログラムを通して、被災地の子どもたちと交わりの時間を持ちました。

以下、参加した学生の感想です。↓

◆感想:神学科2年 林茉莉さん

この八月、二度目であり一年ぶりの東仙台子どもキャンプに参加してきました。様々な経験を経て、再び今年も参加することができたので、去年とは違った考え方や学んだことがありました。

私は最近、学内のわわわクラブという子ども伝道に参加するようになりました。そこで子どもに対する関わり方や、自分が小さかった時にしてほしいことを考えながら、このキャンプでは子どもたちとめいっぱい遊ぼう、と考えていました。実際に三日間を過ごし学んだことは、どうしても遊んで“あげよう”と思ってしまうですが、そうではなく、しかし見守りつつ、同じ遊ぶ“友達”として過ごすべきであるということでした。そのように過ごして、子どもたちの溢れるほどの元気をたくさん感じる事ができ、とても励まされました。

被災地に、駅や線路、道路などが新しく作られているのを見てとても嬉しく思いました。しかし、心の傷はまだ癒えていないのだと感ずる瞬間もありました。被災地の子どもたちには、長期的なケアが本当に重要であり、必要です。東仙台で震災のあった時から働いておられるスタッフのために、また子どもたちのためにともに祈りましょう！

◆感想:神学科4年 佐久間いずみさん

キャンプに参加して最も強く感じたこと、それは長い時間をかけて築かれてきた「信頼」と「つながり」である。東仙台教会のこの働きは、3.11以降7年目を迎えている。キャンプに参加する子どもたちの多くは、普段、東松島市にある東仙台教会のボランティアセンター「サクラハウス」に集っている。津波の被害を受け、今なお、あの日を忘れることのできない場所で、一人ひとりの成長とケアを「サクラハウス」とキャンプが担ってきたことを強く感じた。常駐スタッフが子どもたちや保護者と関わる姿勢から多くのことを学んだ。

まだ、直接福音を語る段階ではない。その中で先生のアドバイス「お祈りに触れる機会を大切にしたいので、食前のお祈りはゆっくり、はっきりお願いします。」この言葉が心に残った。

◆感想:神学科3年 久島真人さん

自分は木を見ても、その木が何の木かわかりません。しかし、実を見れば何の木かわかります。キャンパーも同じでした。キリスト者であるスタッフの態度や言葉、信仰などを通して、彼らはキリスト者が何を恐れ、何を愛しているのかを理解していました。そして、敬意とわからないけれどもどこか惹かれる不思議さを心に抱きながら、自ら祈り、共に賛美していました。教会も行ったことがない彼らにキリスト者を通して神ご自身が存在を示し、彼らを通してキリスト者に主の偉大さを表してくださった一時でした。聖書を説き明かすメッセージの時間がなくても、キリスト者を通して臨在と偉大さを表される神の一しもべとして、口だけではなく、実(態度)で示す忠実なキリスト者へと成長していきたいと強く決心させられるキャンプでした。



★募集★

ボランティアセンターの新しいスタッフを募集しています。被災地支援に関心のある方はリーダーズ(吉橋、マクドエル、泉ユ、遠田)までご連絡ください。